

CJM REPORTER

カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM) 2008年春号



中野ユリ牧師

下記は2008年3月15日にエドモントンで行われた戦没者メモリアルサービスで中野牧師が語られたメッセージです。マイケル(25歳)はエドモントン日系キリスト教会の会員でした。

マイキ(私は昔から彼をこう呼んでいます)はいつも、とにかく楽しいことが好きな子として教会で知られていました。彼との一番の思い出は、教会の中高生と一緒にコナーズ・ヒルでそりすべりをした時のことです。恐怖でいっぱいだった私は斜面を滑り降りるのを拒否していましたが、彼は私を優しく諭し、一緒にすべれば安心と私を勇気づけてくれたのでした。彼が笑って楽しんでいるのを横に、私はもちろん上から下まで絶叫しながら降り、命からがらの思いだったのですが、その時印象深かったのは、彼が物事を説明し、人に安心感を与えることが上手だということでした。

マイキの日本語名はユウキですが、その漢字は「諭す」という字に「輝く」と書くことを先日、彼のお母さんから聞きました。彼を上手く現している漢字だと思います。今日、マイキはどのようなメッセージを私たちに語るのでしょうか。

1996年6月23日、彼が13歳だった時の彼の洗礼式で彼が証した言葉を私は皆さんと分かち合いたいと思います。

「僕は、2年前に行ったサニーサイドキャンプでイエス・キリストを受け入れました。それは、キャンプで、ある御言葉を聞いたときでした。その御言葉はヨハネによる福音書3章の16節：『神は実にそのひとり子をお与えになるほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠の命をもつためである。』

僕は、この御言葉を聞いたとき、とても驚きました。

僕は、これまで、永遠の命を持つことが出来るなんて知らなかったからです。僕は永遠の命が欲しいと思いました。そして、これからの人生、神様と共に生き、神様を礼拝し、神様を讃美していきたいです。」

使徒パウロはテモテに宛てた手紙で次のように上手く書いています。6章12節：

『信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました。』

マイキも立派な告白をし、永遠の命を獲得し、私たちはこのことによって慰められるのです。

マイキは人なつこく、兵隊であることの責任感に誇りを持ち、まさに輝いている人でした。

兵隊というのは何を楽しみにしているのでしょうか。

兵隊というものは『故郷に帰る』ことを楽しみにしているものです。彼がこの地上の故郷に帰ることが出来なかったことに、私たちは悲しみを覚えます。しかし、マイキは天の故郷に戻っています。マイキを愛し、マイキの最善を望む神様のもとに帰っています。イエスはこう述べました：『あなたがたは心を騒がしてはなりません。

神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。』

悲しみも痛みも、死もない、全てが新しく生まれ変わると約束された場所なのです。

また、兵隊は勝利を楽しみにしているものです。神様は、マイキは勝利をすでに得た、と私たちに語りたく、こう私は信じています。人となった神、イエス・キリストが私たちのためにまず最初に勝利をものにして下さいました。だからこそマイキの勝利も可能なのです。イエスが、十字架上で死と罪に対する戦いに勝利したのです。イエスが私たちの罪を背負い、私たちの身代わりとなって下さったのです。イエスは私たちのために命を捧げて下さったのです。そして葬られ、3日後によみがえり、勝利を得て下さったのです。イエスの復活は、マイキが、そして私たちが、罪からきよ

められ、赦されることを可能にし、またイエスと永遠を共にすることを可能にしたのです。イエスはこう述べられました：『わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。』

第一コリント15:55-57

『「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えて下さいました。』

マイキは私たちが勝利の日々を生きて欲しいと願っていることと思います。これがマイキらしいことではないかと思うのです。私たちが、彼の死に失望感を抱いたり、敗北感を感じたりして欲しくないと彼は思うことでしょう。あの雪の斜面に対する私の恐怖心を和らげてくれたのと同じように、彼は私にこう言ってくれていると思うのです：「全ては上手く行っているよ。」と、そして「天国での祝宴は本当に楽しみだね!」と。*



マイケル 論輝 ハヤカゼ 兵士

レスブリッジ ジャパニーズ クリスマン フェローシップ

日曜礼拝：午後2時より First Baptist Church にて。1614-5th Ave. South, Lethbridge, AB
 牧師：秋山賢 電話：403-317-1987 Eメール：sakiyama@telus.net

秋山賢牧師



秋山賢牧師 真理夫人
 創平君（9）有紗ちゃん（7）

LJCF(レスブリッジジャパニーズクリスマンフェローシップ)の去年のクリスマスパーティ(12月22日)は、教会に来ている方々が祈りに覚えている方々をお誘いしました。

テーマは「イエス様のお誕生日を一緒にお祝いしよう!」で、そのテーマにそって、クリスマスメッセージは私が日本語そしてロン先生が英語で語り、クリスマスクイズにクリスマスビンゴと楽しいプログラムもあり、子供プログラムも用意されました。今年もたくさんの未信者の方々や初めて教会に来られた方々と暖かく楽しいイエス様のお誕生日会を持つことができました。私達にとって、12月は、座る間もないと感じるほど、忙しい月でしたが、イエス様の誕生をお祝いするための、またそれを紹介するための忙しさであり、忙しさ中にいつも喜びがありました。クリスマスパーティに来られた方々を中心に誘い、ラーメン大会(1月)、アイスフィッシング&天ぷら(2月)をアウトリーチプログラムとして行い、それぞれに地元の日本人家族、日系人の方々が参加し、関係を深め築き上げていく機会として用いられました。

今年のLJCFのテーマは、「イエス様の願いにかなう教会」。イエス様の愛と恵みに憩い、そこから喜びと感謝をいただいて、イエス様の御心を求めていくこと、そしてLJCFの一人一人がイエス様のご性質を反映する者、恵みによる愛の奉仕者、そして愛を伝える使者であるようイエス様が願っておられることを心にとめて、イエス様の願いにかなう教会を目指していきたいと祈って取り組んでいます。

今年の6月に私達はレスブリッジに遣わされて5年目に入ります。初めての宣教報告を6月26日から日本で行います。7月23日(真理と子供達は8月28日)までの日本滞在で、すでに日曜日の礼拝の奉仕教会はすべて決まりました。この4年間、レスブリッジ宣教を支えてくださった教会の訪問、レスブリッジで関わった、また救われた若者達を訪問し励ますこと、そして一人でも多くの方にレスブリッジ宣教の為に祈り支えていただけるように、支援の輪が広がるように、この約1ヶ月の日本滞在が用いられるよう祈り、日程を決めています。真理と子供達は、賢がカナダに戻った後、東京聖書学院の神学生時代に奉仕した教会を訪問したり、バイブルキャンプなどに参加する予定です。私たちのデピュテーションのために、すでにたくさんのサポートがよせられていると聞き、ささげて下さった方々に心から感謝申し上げます。日本での短い宣教報告ですが、実りの多いデピュテーションとなるようお祈りください。*

献金

秋山牧師ミニストリーのサポート、また一般会計への献金は、下記にお送り下さい。

Brenda Ohara-Peters
 669 Hillman Cres.,
 Mississauga, ON L4Y 2J1

Tel.: 905-949-4182
 Email: bjobjo@aol.com



2007年クリスマスパーティー

その理由は。。。

「そんなに簡単なことなのかい？」と、私の友人は訪ねました。「イエス・キリストが十字架にかけられたのは知っているけど、それが僕にどう関係あるんだろう？」とてもいい質問です。私自身も何年も前に彼とまったく同じ質問を自分自身に問いかけたことがあります。その結果、この御言葉に導かれました。「そして自分から十字架の上に、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、癒されるのです。(第1ペテロ2:24)」

イエス・キリストが十字架にかけられた時、そこには、神の永遠なる目的がありました。ローマ軍がキリストに勝ったために十字架にかかったのではありません。神様は、いつも私たちを救おうとしておられました。そして、神と関係が絶たれた「失われた」罪人たちに対し、神様との関係を回復する道をひらこうとされたのです。それには、神のひとり子、イエスが私達の罪の身代わりとなって死ぬことが必要でした。だから、これは私達にとってとても良き知らせなのです。ヨハネの3章16節にはこうあります。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠の命

を持つためである。」

神様は、私たちが神様との関係を回復する際、すばらしい知識の持ち主であること、宗教的であること、よい人格の持ち主であること、人間理解が深いこと、そういったことは全く要求されませんでした。そうではなく、主イエス・キリストが私たちの身代わりとなって十字架にかかって死んで下さったことを信じるその信仰によって私達を救って下さいました。

私の友人は、私の話にも慎重に耳を傾けていました。そして、「それは、ちょっと簡単すぎやしないかい？」と言い、別れ際に、「今の話について、ちょっと考えてみるよ」と言い、帰って行きました。彼とはそれきり、会っていません。聖書はこう言っています。「人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。(箴言14:12)」神様がすでに聖書において示して下さっている救いに至る道を、そのまま受け入れることの出来る人は幸いです。



金城ノリ
 C J Mディレクター

ニューウエストミンスター福音自由教会

場所：7895 Canada Way, Burnaby, BC 日本語礼拝：午前9時半と午後1時半
ケン・ストロム牧師（英語）中原明美牧師（日本語）， Website：www.nwefc.org/index/php

中原明美牧師

復活された主イエス・キリストの御名を賛美いたします。皆様のお祈りに支えられ、私達も神様からの豊かな祝福を受けています。劇的な教会の変化や、礼拝への参加者が増加したのではありませんが、これまでと同じような集会や交わりの中に、確かな主の御介入を感じます。

昨年秋以降に私たちの交わりで起こった感謝なことをご報告します。

教員籍の獲得をなされた兄弟が加えられました。主日礼拝ごとに、参加者の積極的な奉仕と協力が続いています。礼拝後の聖書の学びは、礼拝説教を分かち合うグループと、聖書通読グループの2つに分かれて、それぞれに貴重な時間を過ごしています。求道者の方々の発言も、教会のメンバーを喜ばせ、たましいのために熱心にとりなし祈る原動力です。

また、隔週火曜日の日本語聖書の学びも継続し、意見交換、みことばの証は確かな深まりを見えています。さらに新しい活動として、2つの集会を開始しました。一つは日曜日の午後小さな礼拝です。教会の地理的な条件で、朝の礼拝に間に合わない方々を対象にしていますが、若い世代へのアウトリーチに発展することを目標にしています。そしてもう一つは、水曜日の午後「主のしもべ」の学びです。この学びを通して、信仰者が主と人々に仕える喜びと姿勢を味わってくださればと願っています。

ESLクラスは、新メンバーを加えながら継続しています。クリスマスやイースターのプログラムを持つことで、英語だけではなく私たちの信仰のご紹介もしています。ますますESLが地域伝道のために

用いられればと願っています。

3月21日金曜日は、加藤紘子さん、優美子さんをゲストに再びお迎えしました。主イエスの受難・十字架・復活の季節に、「悲しみ・苦しみから希望へ」と言うテーマで、賛美のコンサートをすることが出来ました。約120名の参加者があり、イースターの出来事を心に刻む充実した時間を過ごしました。

前回祈りの課題で上げた、教会全体の霊的成長は、具体的で実践的な祈りに取り組むことで、教員が確実にそのステップを踏み始めました。とても感謝なことです。これから、収穫のための備えと、時にかなって遣わされたいと待機しています。*



教会にてバイブルスタディ

ウィニペグ日系アライアンス教会

日曜礼拝：午後2時よりTrinity Baptist Churchにて。549 Gertrude Ave. W., Winnipeg, MB
Website: www.winnipegjapanesechurch.com

神の訪れ

ウィニペグトリート2007年11月16日-18日

二人の若いお母さん方、マサコ(Adachi)さんとまさみ(Giesbrecht)さんが、ウィニペグでトリートを行うヴィジョンをもち、その計画を始めたとき、それに伴う準備の大変さにはまだ気づいていませんでした。多くの犠牲に伴い、ゲストスピーカーの選択から、出席予想まで、それはまさに信仰の歩みでした。牧師不在の母教会、そして松原先生は自宅療養されている状態の中で、彼女たちは自分たちしか頼れる人がいませんでした。しかし、熱心に祈り、交通のアレンジ

から食事の用意、ミーティング、チャイルドケアといった、様々な必要を考え、忍耐強く、慎重な計画を立てました。

もしこのお母さん方がこのトリートがどうなるのか不安や疑問を抱いていたのなら、それ

下記は吉田エドワード牧師（ウェスリーチャペル）がトリートのゲストスピーカーとして招かれた際の報告です。

は不必要な心配でした。まさみさんはジョシュアくんとノアくん(生後七ヶ月)を二人用のストローラーに乗せて、空港にいました。レイマーさんとノブコ(Clausen)さんは、ゲストスピーカーを会場のトリニティーバプテスト教会まで車で送り、ロブ・ダンカンさんも送迎の手伝いをしてくださいました。そしてコリー(Giesbrecht)さんは、チャイルドケアをして下さり、日曜礼拝では賛美リードもして下さいました。松原先生と米子さんは弱った体にチューブをつけた状態のまま、力を振り絞って礼拝に出席して下さいました。ハレルヤ！ 主は彼女たちの祈りと努力を無駄にはされず、豊かに報いて下さいました。下の写真は、礼拝後に撮られたものですが、少なくとも28人の参加者がありました。神様の祝福のもと、すばらしいトリートの週末となりました。

そして、トリート後も彼らの交流は続き、ウィニペグの外でもそのトリートはリバイバルのようであったと語られ、そこに主席した人たちの主にある交流は続けられ、さらに深まりつつあります。ゲストスピーカーは、トロントに戻りましたが、ウィニペグにある神様の貴い群れを喜び、彼らへの思いが一層深まりました。神にすべての栄光あれ！ *



ウィニペグトリート参加者

ウエスリーチャペル日本語教会

2385 Warden Ave., Scarborough, ON M1W 2L6
日曜礼拝午前11時より
吉田エドワード牧師（日本語部）

一生 - ウェスリーチャペルの「若き実り」

原田一生（いつき）くんは、1990年12月28日、原田こうずけさんとちえりさんの間に長男として生まれました。彼は、大概の日本人家庭がそうであるように、伝統として形式的に仏教をうけついで家庭で育ちました。去年の12月、一生さんが日本を訪れた時には、先祖の墓にお参りに行くように促され、また大阪にある祖父の家で何日か過ごしたときも、先祖の仏壇に敬意を払うように言われたと言っています。

しかしながら、神様は一生さんの上に偉大な救いの計画を持っておられたに違いありません。彼の母方の叔母2人は国際結婚をし、1人はイギリス、もう1人はトロントで暮らしていました。彼が、中学校を卒業した時、イギリスの高校で学ぶ計画がありましたが、何らかの理由でクリスチャンの叔母えみこさんがいるトロントの高校へ進学することになりました。

叔母のえみこさんの息子はスカボロークリスチャンスクールに通っており、一生くんも同じ学校で学ぶことになりました。このクリスチャンスクールは小さな学校でしたが、彼を積極的に助けてくれるスタッフがたくさんいました。これら人々に助けられながら、しだいに大きな影響を受けるようになっていた一生くんは14ヶ月のうちに、親友の真武太くんと大井くん、そして先生の導

きと教えのもと、キリストを信じ、従う決心をしました。この彼の決心は、彼を変えたでしょうか？もちろんです。彼の人生を大きく変えました。

彼は、何をすることも神様の臨在を感じ、以前には感じたことのないような自由も感じると言っています。使徒ヨハネの「神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」という言葉にも感銘を受けたそうです。彼はまた、大宣教命令の一端を担うものとしての重荷を喜びとともに受け取り、キリストとの出会いによってもたらされた喜びを、多くの人に、特に彼の家族に伝えて行きたいと願っています。一生くんは、御言葉への従順の証として2008年のイースターの朝、ウエスリーチャペルで洗礼を受けました。*



2008年3月23日、イースターの日曜に吉田牧師より洗礼証明書を受け取る原田一生くん

バンクーバー日系福音教会

425-11th St., New Westminster, BC V3M 4G1
日曜礼拝一午前11時より
福迫徹也牧師（日本語部） ロバート・ブラウン牧師（英語部）
Website: www.japanesegospelchurch.com



主にある一致と協力

福迫徹也牧師

私達の教会では3年前より、韓国人教会との協力による日本人伝道が進んでいます。「日本人教会と協力して、バンクーバーに住む日本人に福音を伝えたいと祈っている韓国人教会がある。」という聞き、韓国メソジスト教会の主訓教会との交わりが始まりました。彼らのビジョンは日本人伝道であり、日本人を日本人教会につなげることでした。

これまでに何度も交わりや集会を協力して行ってきましたが、昨年10月に行われた「ゴスペルコンサート」では近くの大学のシアターを借り切って行ったところ約300人が集まりました。その中の多くはバンクーバーに住む日本人の留学生です。コンサートから教会につながり救われる人や霊的に成長する人が沢山起こされました。今年は、婦人向けの集会として日系センターを借りて「母の日韓国料理レディスランچョン」を5月13日に行う予定です。また、バンクーバーのダウンタウンにある韓国人クリス

チャンが運営するミッションセンターでも日本人留学生伝道が行われていますが、彼らはこの場所を「日本人教会のためのミッションセンターとして使ってほしい」と言ってくれています。日本と韓国との関係は昔よりは良くなったとは言え、まだまだ両国の間には大きな溝や深い傷があります。しかし、韓国人クリスチャンは主の愛によって日本人を愛し、主の救いのために多くの犠牲を払って奉仕してくれます。

日本国内でも近年、北米よりも多くの韓国人宣教師が来ていますが、彼らの民族の歴史を超えた働きにはキリストの愛の実践を教えられます。CJMの働きも同じキリストの愛によって始まり、カナダ各地で継続されていることを考えるときに、教会の働き、福音宣教の前進には主の愛を受けた者達によってなされる文化や歴史や民族を超えた主にある一致と協力が必要なことを覚えます。その時に、共に神の国のために奉仕する喜びを体験することが出来ます。*

JAPANESE GOSPEL Church of Toronto

トロント日系福音教会

場所：Chinese Pentecostal Church, 220 Duncan Mills Road, North York, ON 日曜礼拝：午後2時より
 佐藤明男牧師（日本語部）416-495-1534, 戎崎レイ牧師（英語部）905-597-5428
 Website: www.jgct.com



佐藤牧師と陽子夫人

会堂建築

佐藤明男牧師

この冬のトロントは、記録的な大雪が降り、厳しい寒さとなりましたが、私たちの教会は、他のミニストリーと並行して、今年の6月から、継続して教会堂を建築しています。

この会堂建築は、教会の信仰の諸先輩方が長い間待ち望んでこられたものです。しかし残念ながら、今年の秋には、教会設立当時の会員で、霊的なリーダーであり、会堂建築を推し進めてこられた田中ポール兄が、会堂完成を見ずに天に召されました。工事の方は、現在ようやく内装、外装共に会堂の形が整ってきています。この会堂建築が特別なのは、ほとんどの工事がボランティアの働きによるということです。ですから、業者の人たちにお金を払って任せるのではなく、私たち一人一人が神のプロジェクトに参加できるという特権が与えられてい

ます。私たち日本語部の教会員も、各々の年齢、性別に合わせて、また賜物を用いて参加しています。例えば、工事現場で手伝いをしたり、ボランティアのために食事を作ったり、ホームページを更新したり、献金をしたりしています。また、一人一人の祈りも大切な奉仕です。このプロジェクトは祈りなくして成り立ちません。世界中のいろいろな教会の兄弟姉妹も、この教会のプロジェクトのために祈って下さっています。

クリスチャンの献身的な奉仕は、私たちの罪のために死んで甦られた主イエスが、それぞれのクリスチャンの中に聖霊なる神として、今も生きておられるという証です。私たちには、ボランティアとして参加しておられる他の教会の兄弟姉妹との、とても有意義な交わりの時が与えられています。神はもうすぐ神の時に、会堂を私たちに与えてくださるうとしておられます。私たちには、会堂が完成した暁には、この会堂を利用して福音伝道の御業に励むというチャレンジが与えられています。どうぞ私たちの教会の働きのために、引き続きお祈りに覚えて下さいますようお願いいたします。 栄光在主 *



GRACEPOINT FELLOWSHIP

カルガリー日系福音教会

教会所在地：2203 - 15A St. S.E., Calgary, AB
 英語部：ブライアン・ラベンダー師 日本語部：谷口洋一師
 Website: www.calgarygospel.com

“Gracepoint Fellowship”から、みなさんにご挨拶申し上げます。“Gracepoint Fellowship”という名前をここで初めて聞く方も多くおられると思います。“Gracepoint Fellowship”はカルガリー福音教会の英語部に最近新しく付けられた名前です。

日本人という背景をもつ人たちだけではなく、様々な背景をもつ人々が集まるこの英語部の現状をふまえ、また教会での奉仕や新しい人をこの教会に招く時のことも考え、教会役員は、英語部に新しい呼び名が必要であると感じ、この名前をつけるに至りました。

コリントの9章22節にあるとおり、「すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。」と述べた、使徒パウロのようでありたいと思います。私達は今までと変わりなく、カルガリー福音教会の一部です。ただ英語部に、その性質を現す新しい呼び名が付けられたという形です。

その他の教会のニュースとしては、今年はいくさんの赤ちゃんの誕生がありました。子ども達が教会の大きな部分となり、チルドレ

ズ・ミニストリーや、ユース・ミニストリーに一層力が入れられています。申命記6章6節～7節にこうあります。「私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。」もしわたしたちがこの御言葉とおりにしっかり行うことが出来たのなら、将来への心配は無用なのではないかと思えます。神様が多くの子ども達をこの教会に送ってくださった祝福を思い、内側からも、また外側からも教会を成長させてくださっている神様に心から感謝し、栄光を帰したいと思えます。*



ラベンダー牧師
 シンディー夫人
 ノア君（7歳）
 イサン君（5歳）